

著書・論文

日本語での著書・論文

【著書・共著など】

ローター・ヴィガー・山名淳・藤井佳世(編著) 『人間形成と承認：教育哲学の新たな展開』 北大路書房、2014年、229p.、ISBN 9784762828638.

人間形成と承認におけるローター・ヴィガーの論稿:

「はじめに」(藤井佳世訳)

「現代における人間形成論と人間形成研究」(池田全之訳)、pp. 18-36.

「ヘーゲルの人間形成論と現代の人間形成研究」(山名淳訳)、pp. 47-70.

「承認と人間形成」(藤井佳世訳)、pp. 80-97.

「制度の目的、承認のコンフリクト、人間形成」(野平慎二訳)、pp. 105-124.

「ドイツにおける教員養成改革と教育学の変容」(鈴木篤訳)、pp. 136-156.

「ドイツにおけるアビトゥーアと学修能力をめぐる議論」(山名淳訳)、pp. 166-186.

論文・その他:

ローター・ヴィガー「世界のモノ、人間形成のコト -- 本テーマに関する試論」今井康雄編『モノの経験の教育学 -- アート制作から人間形成論へ』東京大学出版会、2021年、259-272頁。

ローター・ヴィガー(鈴木篤訳)「ドイツにおけるヒロシマの遺産——歴史と今日の課題」教育哲学会編『教育哲学研究』第121号、2020年、5-11頁。

ローター・ヴィガー(林宮玉訳)「グローバル化した世界において教育哲学が抱える言語の問題に関する考察」教育哲学会編『教育哲学研究』第121号、2020年、40-43頁。

第4章 ローター・ヴィガー(伊藤実歩子訳)「Bildungとアビトゥアー—ドイツにおける伝統的理解と現在の議論」伊藤実歩子編著『変動する大学入試—資格か選抜かヨーロッパと日本』大修館書店、東京、2020年、99-116頁。

ローター・ヴィガー(山名淳訳)「記憶・想起と人間形成」立教大学教育学科編『研究年報』第63巻(2019)、2020年、167-177頁。

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=2161&pn=1&count=50&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=49

ローター・ヴィガー・伊藤実歩子訳「Bildung(ビルドゥング)と評価」、『立教大学教育学科研究年報』、2018年、第62号、pp. 197-205、<http://doi.org/10.14992/00017623>.

ローター・ヴィガー・伊藤実歩子訳「Bildung(ビルドゥング)とアビトゥア」、『立教大学教育学科研究年報』、2018年、第62号、pp. 185-196、<http://doi.org/10.14992/00017622>.

ローター・ヴィガー「ピエール・ブルデューの『世界の悲惨 (La misère du monde)』と教育学研究におけるその重要性」、『大阪大学教育学年報』大阪大学大学院人間科学研究科教育学系、2018年、第23号、pp. 137-149、ISSN 13419595、<https://doi.org/10.18910/67867>。

ローター・ヴィガー「カタストロフィーと教育学—いまだ明らかにされていない両者の関係性をめぐって」（山名淳訳）『災害と厄災の記憶を伝える—教育学は何ができるか』山名淳・矢野智司（編）勁草書房、2017年、pp. 284-303、ISBN 978-4-326-25120-9。

藤井佳世・野平慎二・ローター・ヴィガー・鳥光美緒子「生の語りと人間形成」『近代教育フォーラム』教育思想史学会、2016年、第25号、pp. 180-187。

[HC1] ローター・ヴィガー・藤井佳世・野平慎二・池田全之・山名淳（通訳）「承認と人間形成」『近代教育フォーラム』教育思想史学会、2012年、第21号、pp. 181-193。

木内 陽一・ローター・ヴィガー・梶井 一暁「20世紀ドイツの人間形成論と人間形成研究」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』鳴門教育大学、2006年、第21号、pp. 1-11。

ローター・ヴィガー「行為研究と西独教育学の科学理論的基礎論議におけるその位置」（今井康雄訳）『文化と教育日独協同研究誌』東洋館出版社、1983年、pp.73-80。